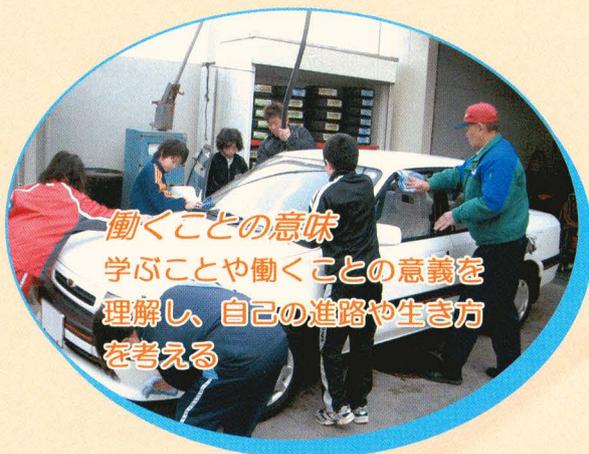


## 児童生徒 一人ひとりの 夢の実現に向けて



**夢づくり**  
夢や希望をもって、前向きに  
自分の将来を設計する意欲を  
高める



**働くことの意味**  
学ぶことや働くことの意味を  
理解し、自己の進路や生き方  
を考える

## キャリア教育を通じた 「生きる力」の育成



**人とのかかわり**  
様々な人々とコミュニケーションを図り、協力して課題に取り  
組む

平成 19 年 3 月

山口県教育委員会

# キャリア教育・学習系統表

～一人ひとりの夢の実現に向けて～

表中の  は、想定される学習内容や学習活動です。(詳細は平成18年3月発行の「キャリア教育学習プログラム」を参照)

## 小学校 (小学部)

自己及び他者への積極的関心の形成・発展  
身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上  
夢や希望、憧れる自己イメージの獲得  
勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

## 中学校 (中学部)

肯定的自己理解と自己有用感の獲得  
興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成  
進路計画の立案と暫定的選択  
生き方や進路に関する現実的探索

## 高等学校 (高等部)

自己理解の深化と自己受容  
選択基準としての職業観・勤労観の確立  
将来設計の立案と社会的移行の準備  
進路の現実吟味と試行的参加

夢づくり

働くことの意味

人々のかかわり

夢づくり

働くことの意味

人々のかかわり

自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長の願いをもつ。【生活】

学校生活によりよく適応し、自己を生かすために、学校生活への希望や願いをもち、日常生活での目標を設定する。【特別活動】

自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うようにする。【道徳・特別活動】

進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。【道徳】

身近で働く人の様子が分かり、それに対して興味・関心をもつ。【生活】



身近にいる幼い人やお年寄りに温かく接する。【道徳・生活・総合】

全校又は学年の児童生徒が一堂に会して、自発的、自治的な集会活動を行う。【特別活動】

中学校生活を体験することにより、新しい生活に対して期待をもつ。【特別活動】

社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つことをする。【総合・道徳・特別活動】



地域の人々の生活にかかわる施設・職場の見学や調査を通して、様々な職業の様子が分かり、働くことの大切さに気付く。【社会・総合】



相手に分かるように話したり、書いたりする。【国語】

家庭・学校・地域でお世話になっている人に感謝の気持ちを表す。【道徳・生活】

相手や目的に応じた言葉遣いで話したり、書いたりする。【国語】

家庭における自分の役割を理解し、自分の仕事を工夫する。【家庭】



・学級や学校における生活上の諸問題、学級内の組織づくりや仕事の分担などについて、協力して解決する。  
・学校内の仕事を分担し、委員会に分かれて、創意工夫して活動する。【特別活動】

話し手の意図を考えながら、話を聞く。【国語】

相手に対して、明るく礼儀正しく接する。【道徳】

将来の夢や希望の実現をめざして、将来の生き方や進路に関する体験を得ながら、個性や学習の成果を生かす進路を選択する。(学ぶことの意義の理解、進路適性の吟味と進路情報の活用、主体的な進路の選択と将来設計など)【特別活動】

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。【道徳】

より高い目標をめざし、希望と勇気をもって着実にやりぬく意志をもつ。【道徳】

職業に場体験のなどの方職に業ついで進路にえるかか。わる体験活動等を通して、【総合・主体】

勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。【道徳】

自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話す。【国語】

幼児とのふれあいやかかわり方を工夫する。高齢者など地域の人々とかかわることができる。【家庭・総合】

全校の生徒により組織する生徒会において、全校の生徒が協力し合って、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動などを行う。【特別活動】



青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考える。【家庭総合】

勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業や進路にかかわる体験が得られるようにするとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う活動を行う。【総合・特別活動】

技術が生活の向上や産業の発展に果たしている役割について考える。【技術】

現代の社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、雇用と労働問題等について理解する。【現代社会】

自己の在り方生き方や進路について考察するとともに、社会に積極的に寄与する意欲や態度を育成する。【産業社会と人間】

家庭や家族の基本的な機能を知り、家族関係をよりよくなる方法を考える。【家庭】



労使関係と労働市場、産業構造の変化と中小企業などについて、政治と経済とを関連させて考察する。【政治・経済】

社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考える。【社会】

高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉についての知識や技術を体験的に習得する。【家庭基礎】

話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取る。【国語】

自分の考えをもって理論的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話したりする。【国語表現】

乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉についての知識や技術を体験的に習得する。【生活技術】

礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動を取る。【道徳】

課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合う。【国語総合】

社会参加と奉仕などについて、倫理的な見方や考え方を身に付け、他者とともに生きる自己の生き方に係る課題について考えを深める。【倫理】

他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。【道徳】

## ■キャリア教育の考え方

### ○キャリア教育とは

キャリア教育とは、教育活動全体を通じて、児童生徒一人ひとりの自己にふさわしい生き方を実現しようとする意欲・態度や能力を育む教育です。

キャリア教育における「キャリア」とは、「個人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」とされていることから「生きる力」を育む教育と同じ方向性をもつものであるといえます。

### ○キャリア教育の必要性

なぜキャリア教育を推進しなければならないのでしょうか。

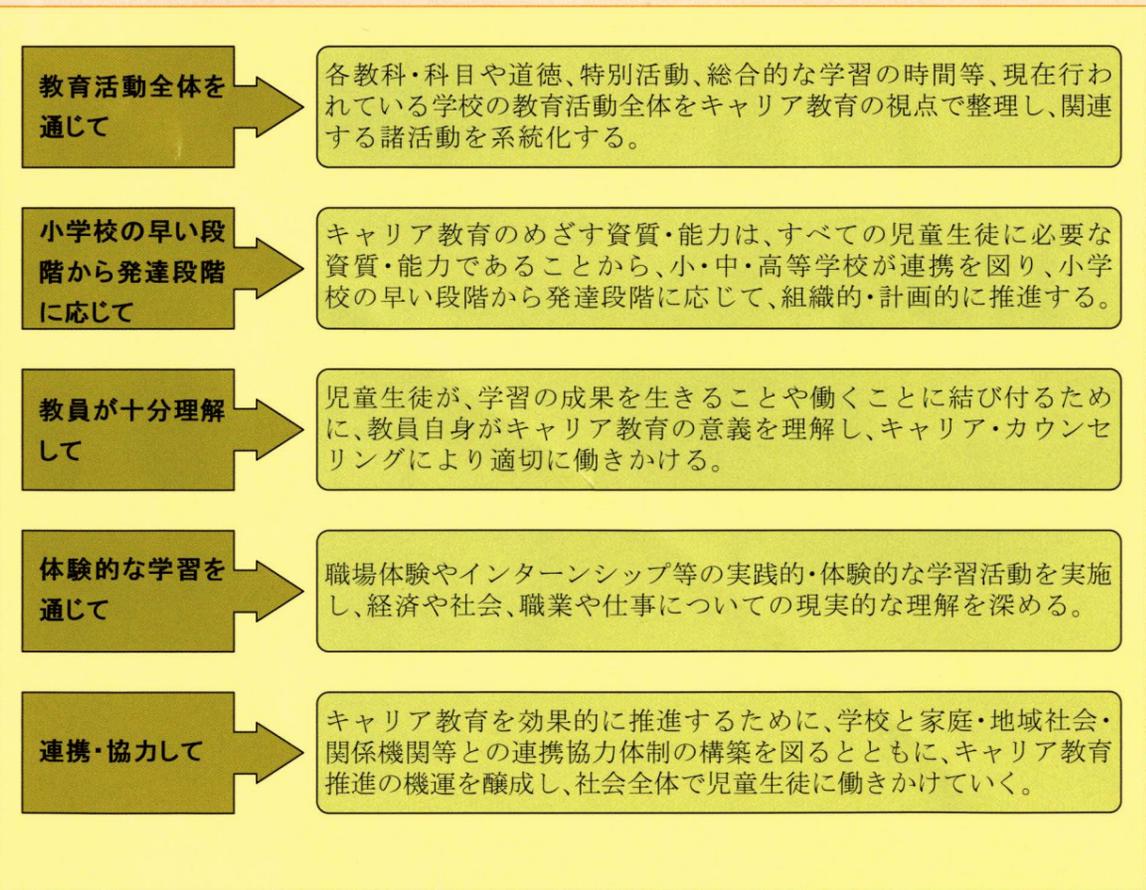
今日、児童生徒の進路をめぐって、次のような課題が指摘されています。

- ・明確な目標や目的をもたないままの進学や就職
- ・不登校や中途退学
- ・フリーター志向の広がりやニートの増加
- ・就職後の早期離職

このような様々な課題の解決に向けて、豊かな人間性の育成、望ましい勤労観、職業観の育成、学習意欲と学力の向上、社会的自立の促進等が必要となってきたためです。

## ■キャリア教育の進め方

小学校の早い段階から、発達段階に応じて、児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢を育むこととともに、将来、社会人として自立していくために必要な意欲や態度、能力の育成を図ることが大切です。そのためには、次の点に留意した取組が必要です。



## ■キャリア教育の課題

### ○系統性のある全体計画や年間計画の作成

小・中・高等学校を通した取組に一貫性・系統性がやや欠けるため、学習内容が重複したり、学習効果や評価が曖昧であったり、一過性のイベント的な取組に終わってしまいがちになったりすることなどの課題があります。

すべての教員がキャリア教育の趣旨を理解し、各教科・科目、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、様々な場面で取り組むとともに、近隣の校種間で情報交換を行うなどの連携を図りながら、キャリア教育の全体計画・年間計画を充実することが必要です。

### ○キャリア・カウンセリングの充実

児童生徒が将来の夢や希望を描き、学ぶことへの意欲や目的意識、働くことの大切さや楽しさを確かなものとしていくためには、計画的なキャリア・カウンセリングによる適切な働きかけを行うことが必要です。

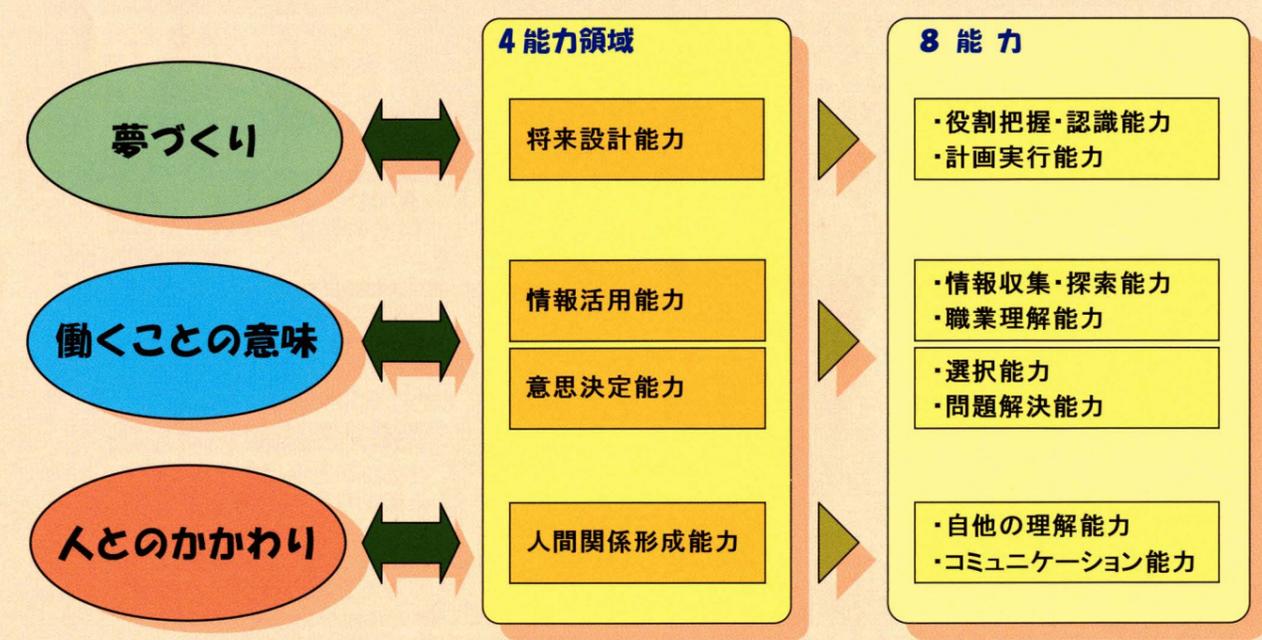
児童生徒一人ひとりの内面の成長・発達を促し、将来、社会人・職業人として自立していく基盤となる能力や態度を育成しましょう。

学校におけるキャリア・カウンセリングとは、児童生徒一人ひとりの生き方や進路、教科・科目等の選択に関する悩みや迷いなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、児童生徒が自らの意志と責任で進路を選択することができるようにするための、個別またはグループ別に行う指導援助をさします。

## ■3つの視点

キャリア教育で付けたい力については、国立教育政策研究所生徒指導研究センターによると「人間関係形成能力」・「情報活用能力」・「将来設計能力」・「意思決定能力」の4能力領域に大別し、それぞれを構成する能力を再編して、各2つずつ計8つの能力に整理しています。

本県ではキャリア教育の取組を系統的に進めていくための、小・中・高等学校に共通する具体的な視点として、この「4能力領域8能力」を踏まえて、「3つの視点」を設定しました。この「3つの視点」で教育活動の工夫・改善の方向性を明確にし、適切な評価をすることとしています。



## ■全体計画モデルと学習系統表について

### ○組織的・計画的な取組の必要性

キャリア教育は、個々の教員だけで取り組むのではなく、学校全体で組織的・計画的に推進することが大切です。そのため、全体計画が必要となります。各学校の実態に応じて作成しましょう。

### ■キャリア教育全体計画作成上の観点

<b>生徒の実態・保護者の願い</b> 学校評価等による児童生徒、保護者、教員のキャリア教育に関する意識、学習への願い・意見等をとらえ、学校の学習指導の重点や改善点を検討するてだての一つとしましょう。
<b>関連する教育法規（根拠）等</b> 「キャリア教育に関する報告書」等でキャリア教育の基本的な考え方について理解しましょう。「平成19年度山口県教育ビジョン推進の手引き」や「キャリア教育学習プログラム」等を参照し、それぞれの校種での位置付けを確認しましょう。
<b>キャリア教育指導目標</b> キャリア教育にかかわる発達課題を考慮しながら、キャリア教育によって育む児童生徒像と、その具現化を図るための指導目標を明らかにしましょう。
<b>各学年の重点目標</b> 学年、学科、選択コースごとに、地域の方々とのかかわりを深める学習や職場体験、インターシップ等の実践的・体験的な学習を年間指導計画に位置付け、重点をおいて指導する内容や付けたい力を明らかにしましょう。
<b>各教科・領域等における指導内容</b> 各教科・科目、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、学校教育活動全体をキャリア教育の視点から整理し、学校で重点を置いて指導する内容や付けたい力等を明らかにしましょう。
<b>校内推進体制</b> 全校体制でキャリア教育を推進していくためには、校務分掌に位置付けるなど、組織的な取組が必要です。各教科・領域の指導の見直しや重点化の協議、学校の全体計画の立案や各学年の年間指導計画の作成等が促進されるように、キャリア教育担当を設けたり、校内推進委員会を設置したりするなどの工夫をしましょう。
<b>家庭・地域との連携</b> キャリア教育を効果的に推進するためには、学校と家庭・地域・関係機関等との連携協力体制を構築し、児童生徒に働きかけていくことが必要です。保護者会や地区別協議会等の機会を通じて、学校から情報を発信していきましょう。
<b>学校間の連携</b> キャリア教育は、小学校段階からの発達段階に応じた指導が必要です。各地域、近隣の学校間で情報を共有し、小・中、中・高あるいは小・中・高が連携し、系統的に発達課題の達成を積み上げていく学習を計画することが大切になります。

### ○学習活動の見直し

次に示す学習系統表では、各教科・科目、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等でのキャリア教育にかかわる学習を、学習指導要領に示されている内容を中心に3つの視点に沿って提示しています。これを参考にし、各学校において教育活動全体を見直し、様々な工夫を凝らし効果的に推進しましょう。

### ○異校種の学習内容を踏まえた目標の設定

キャリア教育を計画的に推進するためには、発達段階を踏まえ、各段階で児童生徒に身に付けたい力を具体的に設定することが大切です。各学校段階でどのような学習が行われているかを知り、異校種の学習内容を考慮しながら目標を設定し、具体的な学習活動を計画しましょう。